



本校は、昭和 12 年に県立新居農業学校に乙種機械科を併置して呱呱の声を上げ、昭和 23 年の学制改革に伴って現在の愛媛県立新居浜工業高等学校となりました。以来、幾多の変遷を経ながら、わが国有数の工業高等学校として発展を遂げ、今年で 86 年目を迎えます。最盛期には全日制が 1 学年 9 学科 11 クラスで 1300 名、定時制は 3 学科 4 クラスで 500 名を超える時代もありました。この間卒業生は、地元はもとより全国各地において、わが国の産業を支えるスペシャリストとして、新工生の誇りを胸に活躍なさっています。

本校には「鍛 究 翔」という校訓があります。「鍛」とは、練習や修練を繰り返して物事に習熟し、心と体を強くすること。「究」とは、学問や技術などを磨き、考え求めて果てまで明らかにすること。「翔」とは、世の中に、世界に、高く羽ばたき、成果を収めて貢献すること。この校訓のもと、日々の教育活動を行っています。

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会のつくり手となることができる資質・能力の育成が求められている現在、急激に変化する社会の最前線にある現場で直接学ぶことができるよう、地域の産業界との連携を強化し、専門高校としての役割を担っていきたいと考えています。そして、地域産業の持続的な成長を支える職業人の育成を目指し、産業界が必要とする未来のつくり手となる生徒を育てていく所存です。

大きな希望と志を胸に本校に入学してきた生徒たちの思いをしっかりと受け止め、伝統を継承しながら更なる高みを目指して、地域に根差した愛される学校となるよう努めて参ります。今後とも、本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力を申し上げ、御挨拶いたします。

令和 6 年 4 月

愛媛県立新居浜工業高等学校長 國久保 浩二